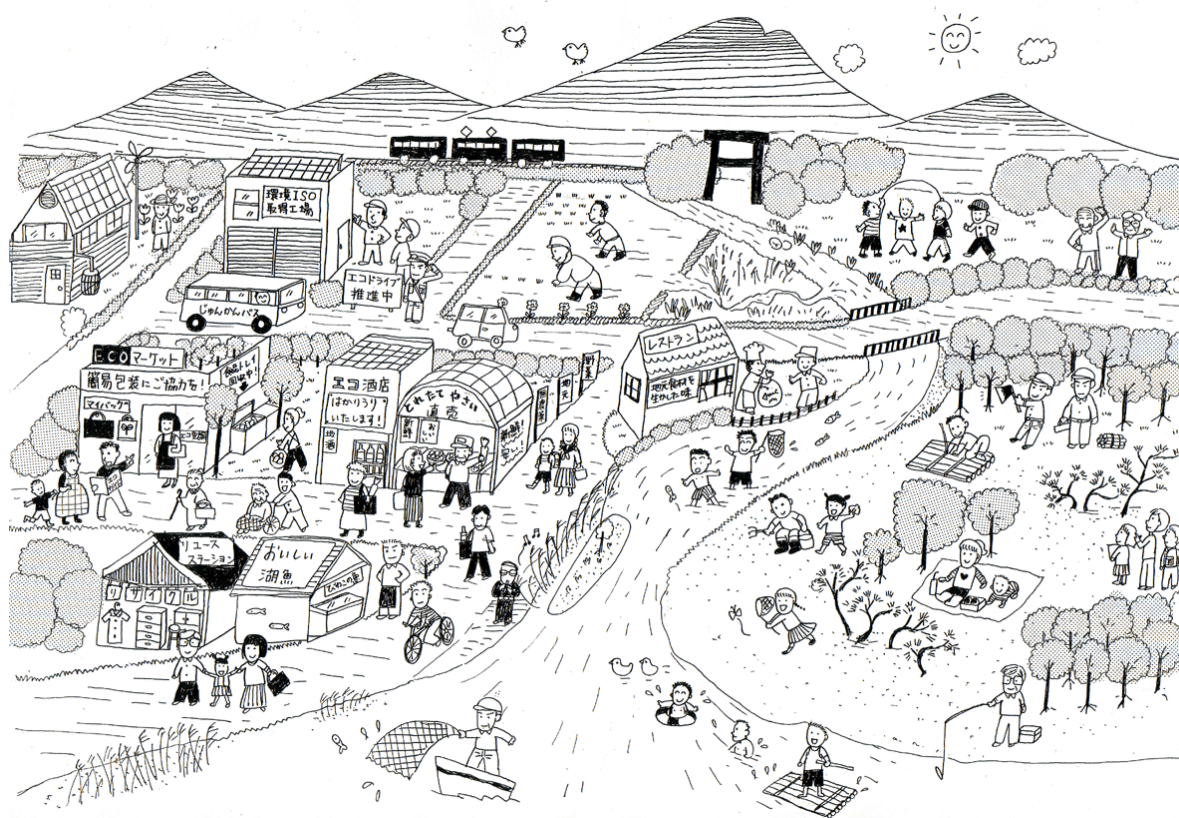


環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

平成 22 年度 通常総会 議案書



平成 22 年 4 月 22 日(木) 13:30~15:30

野洲市まちづくり協働推進センター(図書館) 大ホール

環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

平成22年度 通常総会 次第

平成22年4月22日（木）13：30～
野洲市まちづくり協働推進センター 大ホール

1、開 会

2、挨 拶

3、御来賓挨拶

4、議 事

第1号議案 平成21年度 事業報告について

第2号議案 平成21年度 収支決算について

第3号議案 平成22年度 事業計画（案）について

第4号議案 平成22年度 予算（案）について

第5号議案 役員の選出について

5、そ の 他

6、閉 会

平成 21 年度 事業報告

各部会の活動実績

平成 21 年度は、前年度の活動を踏まえて内容の充実とプロジェクトへの参加者の拡充を図ることを目標とした。結果、学習会や啓発イベントを計 107 回開催し、延べ約 3,800 人の市民の参加を得ることができた。(平成 20 年度比約 1,900 人増)

また活動の振り返りと評価を行い、有識者や企業、行政といった第三者から環境基本計画を推進するために、広報の方法や部会同士の連携、子どもを対象とした体験型環境学習などのアドバイスを受けた。

自然部会は、国や財団の助成金を活用し、里山、川、緑地、びわ湖の流域における活動と連携しながら、環境保全を啓発する多様なイベントの開催を通じて、多くの市民に対してプロジェクトの趣旨を啓発し、活動への参加を呼びかけた。

エコ資源部会は、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた仕組みづくりをめざし、市民参加によるプロジェクトの実践(省エネ学習・生ごみ資源化・廃食油の利用促進・リユースの促進・エコな店ガイドブック)を進め、リユース制度の試行実施や学区単位での環境学習会を通じて取り組みの普及活動を行った。

まち・くらし部会は、一人ひとりが身近な暮らしで実践できる環境に配慮した行動(レジ袋の使用削減、エコドライブ)を普及させるため、体験型の学習会を開催し、ライフスタイルの転換を呼びかけた。

平成21年度 プロジェクト活動（学習会・啓発イベント）の実績

自然部会

	概要	回数	人数	プロジェクト名
里山	里山での自然観察・体験学習会(大篠原、小堤、妙光寺)	3	131	野洲の里山の自然に触れよう、知ろう
	里山保全活動	17	125	
	小計	20	256	
川 びわ湖	ホタルの飼育学習会(ホタル学校)	4	235	「おらが川」人が楽しめるきれいな川づくり 琵琶湖を身近なものにしよう 葦地帯をみんなで増やそう
	家棟川エコ遊覧(砂浜学習会含む)	28	912	
	家棟川エコ遊覧 船頭講習会(座学、実地)	1	13	
	びわ湖に親しむイベント(あやめ浜まつり)	1	234	
	漁民の森づくり事業	1	200	
	びわ湖の学習会(中主小学校)	1	120	
	ヨシ苗ポットづくり(中主小学校)	1	120	
	ヨシ植えイベント	1	351	
	小計	38	2185	
緑	野洲川河辺林での自然観察会	2	38	河畔林の再生 まちなかの緑ボリュームアップ大作戦
	河畔林保全活動	17	191	
	小計	19	229	
部会小計		77	2,670	

エコ資源部会

	概要	回数	人数	プロジェクト名
環境学習	地球温暖化に関する学習会	3	69	みんなで進める環境学習
	小計	3	69	
生ごみ	生ごみ資源化事例発表会	1	52	生ごみ資源化システムづくり
	小計	1	52	
リユース	リユースセンターでの物品無償譲渡会	3	110	お得で楽しいリユースステーションをつくろう
	小計	3	110	
部会小計		6	179	

まち・くらし部会

	概要	回数	人数	プロジェクト名
グリーン 購入	マイバッグ持参啓発キャンペーン	1	23	ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち
	買い物ごみ減量出前講座	21	933	
	小計	22	956	
エコドライブ	エコドライブ教習会	1	9	一人ひとりが自動車社会見直す「エコドライブ活動」
	エコドライブ講習会(エコ資源部会の環境学習会との連携分を除く)	1	12	
	小計	2	21	
部会小計		24	977	

合計

107回	3,826人
------	--------

【参考】

平成19年度 32回 1,445人

平成20年度 66回 1,901人

1. プロジェクト 『おらが川』 人が親しめるきれいな川づくり」

事業費 355千円

① 家棟川エコ遊覧の開催（4月～11月 28回実施 延べ912人参加）

市内コミセンの事業や観光物産協会などと連携し、市内の河川の多くが流入する家棟川で手漕ぎの小型舟に乗り、豊かな生態系の観察を行う一方、河川の水質や散乱するごみの状況を直接体験する学習会を開催した。

- 子どもを対象とした環境学習

特に子どもを対象とした櫓漕ぎ体験や環境学習には、延べ259人が参加した。

- 学習内容の拡充

国の補助金を活用し、家棟川の歴史や魅力を伝えるパンフレット「家棟川物語」を作成した。それを元に船頭の「語る力」を高める講習を行ったほか、地元自治会とも連携し、地域の方が講師となり、その地域のことを学べる機会を提供した。

- 湖魚の伝統食の普及啓発

エコ遊覧にあわせ、湖魚の伝統食（お弁当）を食べてもらい、びわ湖の生態系保全や食文化を体験してもらうことで、第一次産業の活性化を図った。

② ホタル学校の開催（6月～12月 4自治会、1企業参加）

市内6ヵ所でホタルの幼虫の飼育実践を行うとともに、そのための学習会を開催した。平成21年度は、昨年を上回る合計1,406匹の幼虫の孵化に成功した。また地域ごとにホタルの生息条件に見合う川づくりに取り組んだ。

これらの活動を広めるため、地域で観察会を行ったり、小学校と連携した学習会を実施した。

2. プロジェクト「野洲の里山の自然に触れよう、知ろう」

「山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう」

事業費 151千円

① 里山・林道の保全作業の実施（4月～3月 毎月実施 延べ125人参加）

地元生産森林組合と連携し、定期的（毎月第1土曜日及び第3火曜日）に以下の里山保全活動を実施した。また生産森林組合の管理地の一部を「山部会の森」として、子どもたちを対象とした環境学習のフィールドとできるよう整備を行っている。

- 間伐材の皮剥ぎ、搬出作業
- 伐採した雑木のチップ化作業
- クロマツなどの植林
- 下草刈りや枝打ちなど林道の整備
- 登山道への案内板（道標、レスキュー杭）の設置

② 市民が里山に親しむ活動（4月、8月、11月 3回開催 延べ131人参加）

一般市民を対象に里山の歴史や自然環境について理解を深める自然体験学習会を開催した。また学習会の参加者に、その都度、保全作業への参加を呼びかけた結果、

徐々に参加者が増えてきている。

- 「春の花ハイキング」(大篠原) H21.4.5 64 人参加
タムシバの咲く山から尾根づたいに城跡のある山頂までを花と歴史を偲びながら歩いた。
- 「親子で里山遊び」(大篠原、小堤) H21.8.9 24 人参加
親子を対象にした里山での、山歩き、川遊び、ネイチャーゲームなどを通じて、地域にある里山の自然を体験してもらった。
- 「妙光寺山の登山と史跡めぐり」(妙光寺) H21.11.8 43 人参加
紅葉の景色の中、多くの史跡の残る妙光寺山を地元の方の解説を受けながら歩いた。

3. プロジェクト 「びわ湖を身近なものにしよう」

事業費 131千円

- ① 第3回あやめ浜まつりの開催(8月24日 234人参加)
シジミ採り体験やフナの子魚の放流、びわ湖の食文化体験など、びわ湖に親しみながら、びわ湖について学ぶことで、水環境の保全意識の高揚を図るための啓発イベントを開催した。
また最後には、保全活動の実践として、参加者で浜の清掃活動を行った。
- ② 家棟川エコ遊覧・湖魚の伝統食・砂浜学習会の開催(7月18日 65人参加)
河川の保全プロジェクトと共同で開催。家棟川では水生生物や水鳥の観察学習を行い、びわ湖では漁師歴40年の松沢氏から昔と今のびわ湖の環境の違いについて学習した。
昼食には、湖魚の伝統食であるアメノイオ(ビワマス) ご飯や鮎煮、エビ豆、シジミの味噌汁などを体験し、びわ湖の食文化と生態系についても学んだ。
- ③ 漁民の森づくり事業の実施(12月12日 200人参加)
びわ湖の水資源を守るために、漁業関係者や生産森林組合、共同作業所が協力し、水源となる山(大篠原地先)へ1,300本の植樹(アオダモ、クルミ、アカマツ、モミ、クリ、ドングリ等)を行った。

4. プロジェクト 「ヨシ地帯をみんなで増やそう」

瀬戸内オリーブ基金助成事業、(内閣府) 地方の元気再生事業、
淡海環境保全財団補助事業などにて実施

- ① びわ湖の学習会とヨシ苗づくりの実施(6月、7月～11月 中主小5年生120人)
水資源機構や淡海環境保全財団と連携し、中主小学校5年生を対象にした環境学習の一環として、びわ湖とヨシについての学習会を行い、学校の池でヨシ苗の栽培を行った。
- ② ヨシの植栽イベントの開催(12月5日 351人参加)
地元自治会を始め、各種団体や企業などと連携し、ヨシの植栽を行う市民参加型イ

ベントを開催した。小学生が育てた苗のほか、購入、寄付なども合わせて約 1,200 m² に地下茎 1,200 本、ポット苗 1,170 株、マット苗 64 個の植栽を行う。同時にびわ湖岸の景観を保全するため、松林の遊歩道づくりを行った。

5. プロジェクト 「まちなかの緑ボリュームアップ大作戦」 「河畔林の再生」「鎮守の森再生」

事業費 105 千円

① 河辺林の保全活動の実施（4 月～3 月 17 回実施 延べ 191 人参加）

市内に現存する野洲川の河辺林（野洲市市三宅地先）を、市民が散策などの憩いの場として利用できる自然公園「緑のプロムナード」として整備するため、浸食している竹の伐採作業を行った。

また今後、環境学習のフィールド（学校林）として活用できるよう教育委員会や北野小学校と協議を行った。

② 野洲川自然林観察会の開催（6 月、11 月 2 回開催 延べ 38 人参加）

身近なところにある豊かな緑地の存在を多くの市民に知ってもらうため、河辺林の自然観察会を実施した。

- 「第 2 回自然観察会 タケノコ掘り」H21.6.6 24 人参加
滋賀の食事文化研究会と連携し、タケノコ料理の試食を実施。子どもの参加も多く、身近な河辺林の自然の恵みを体感できた。
- 「第 3 回自然観察会 木の実の観察」H21.11.16 14 人参加
滋賀県立大学の野間先生を講師に、秋の木の実やそれを食べに来る野鳥の観察会を実施した。またクルミなどの木の実の試食も行った。

1. プロジェクト 「みんなで進める環境学習」

事業費 38千円

① 環境フォーラムの開催（11月、12月、1月 3回開催 延べ69人参加）

昨年度に引き続き、地球温暖化抑制をテーマとした学習会を学区単位（北野、祇王、三上）で開催した。開催に当たっては、事前に地域の自治会に説明を行い、参加依頼を行うなど連携したほか、より多くの参加者を募るため、粗品（リサイクル商品）を配布した。

また学習教材についても、新たな映像資料を使用し、内容の更新を行った。

- 「第5回環境学習会」コミセンきたの H21.11.21 13人参加
- 「第6回環境学習会」コミセンぎおう H21.12.13 24人参加
- 「第7回環境学習会」コミセンみかみ H22.1.30 32人参加

2. プロジェクト 「生ごみ資源化システムづくり」

事業費 101千円

① 家庭向け生ごみ堆肥化比較実験の実施（4月～3月）

家庭で出来る生ごみの堆肥化について、省エネに配慮した好気性微生物の働きによる次の4つの方法について比較試験を実施中。

- （1）市販の手回し式「自然にカエル」
- （2）土のう袋による堆肥化
- （3）市販の藤本式「くうたくん」
- （4）生ごみ処理母材「アースラブ」
- （5）段ボール箱による堆肥化

② 生ごみ堆肥化実践報告会の開催（3月28日 参加者52人）

市内で生ごみの堆肥化を実践されている団体や個人の活動報告会を実施した。実際に使用している資材や処理した生ごみなども展示し、堆肥化のポイントや工夫点など経験に基づいた意見交換を行った。

3. プロジェクト 「てんぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう」

事業費 41千円

① 使用済み（期限切れ）てんぷら油の回収

市民団体エコロジーマーケットやすの会と連携し、偶数月において回収協力拠点14箇所で使用済み天ぷら油の回収を実施した。

- 回収拠点（14箇所）

自治会	4箇所
会館等	2箇所
個人グループ	8箇所

- 回収量（合計 5,453L）
 - エコロジーマーケットやすの会 1,830L（H20 年度 1,474L）
 - 野洲市回収 BOX（市内 12 箇所） 3,623L（H20 年度 3,851L）

4. プロジェクト 「お得で楽しいリユースステーションをつくろう」

事業費 46 千円

- ① リユースセンターの試行実施（7 月、10 月、12 月 3 回実施 延べ 109 人参加）
 昨年から開始したリユース制度（試行）を行政と連携し、実施した。その都度、より効率的な運営方法について、協議を行った。

（単位：点）

	来場者数	小型家具	チャイルドシート	バッグ	陶磁器	食器
H21.7.26	19 人	4	1	0	多数	多数
H21.10.12	50 人	8	2	3	多数	多数
H21.12.20	40 人	13	0	0	多数	多数
合計	109 人	25	3	3	---	---

- 小型家具とチャイルドシートは、希望者が多い場合には抽選
- 個数が多いため先着順（自由持ち帰り）とした陶磁器・食器類は、人気が高く、開場と同時に好みの品を探す方もおられた。

5. プロジェクト 『こんなエコな店があるよ』ガイドブック作成事業」

事業費 21 千円

- ① 本調査に向けた協議（7～9 月）
 当初は、各店舗の環境に配慮した取り組みを評価する予定であったが、昨年度の予備調査等を元に協議した結果、各店舗の取り組みを自慢、PR することのできるガイドブックとする方針とした。
- ② 調査の実施、集計（10 月～）
 市内の食品販売店 58 店舗に対して、以下の項目について聞き取り調査を実施した。その結果を集計し、次年度ガイドブックとして発行予定。
- 地産品の販売（市内・県内）、産地表示の有無
 - 無農薬、減農薬野菜の販売
 - ばら売り、量り売り
 - レジ袋、包装類の削減取り組み
 - 食品トレイ、牛乳パックなどの回収 など

1. プロジェクト 「ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち」

事業費 144千円

① ごみを減らそうポスター展の開催（6月 市内各コミセン）

昨年度に市内小学4年生を対象に募集した「ごみを減らす工夫・アイデアポスター」361点を市内の各コミセンにおいて展示し、地域や家庭におけるごみ減量の啓発を行った。

② ごみを減らそう出前講座の実施（4月～3月 21回実施 延べ933人参加）

自治会や市民団体に対して、レジ袋をはじめとした買いものごみの減量など日常生活スタイルを環境に配慮したものへ見直していくことを呼びかけるため、プロジェクトメンバーと行政担当者による出前講座を実施した。

昨年度作成したプログラムに加え、子ども（親子）や年寄りにも親しみやすいよう人形劇やエコソング・ダンスを取り入れたものを検討、実施した。

	回数	参加者
自治会、市民団体等	6回	150人
ふれあいサロン、介護施設等	9回	211人
学童保育所、幼稚園、保育園等	6回	572人
合計	21回	933人

③ 県のレジ袋削減取り組みとの連携

滋賀県が中心となり、県内事業者や市民団体、市町がともに取り組んでいる買い物ごみの減量化と連携し、レジ袋の無料配布中止に向け協議を行っている。

● 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施（3月12日 23人参加）

その啓発活動の一環として、小売店舗（市内では2店舗）の店頭において、環境に配慮した買い物（グリーン購入）の呼びかけを実施した。

2. プロジェクト 「一人ひとりが自動車社会を見直す『エコドライブ』活動」

事業費 167千円

① エコドライブ教習会の開催（11月28日 9人参加）

地域や企業においてエコドライブを普及するためのリーダーを養成するため、エコドライブが求められる背景とその運転方法、省エネ効果について学ぶ教習会を開催した。運転実習では、データ解析による燃料消費量の比較を行うことで、わずかな運転の違いによる省エネ効果を実感した上でエコドライブの習得を図った。

② エコドライブ講習会の実施支援（2回）

エコドライブ推進リーダー（教習会の受講者）が、地域や企業においてエコドライブ講習会（研修会）を実施するにあたり、情報や資料等の支援を行った。

またエコ資源部会と連携し、環境学習会でエコドライブの普及啓発を行った。

第 2 号議案

平成 2 1 年度 収支決算報告

(収入)

単位:円

科 目	平成21年度 当初予算額	補正 予算	決算	差額	備 考
会 費	71,000	67,500	65,000	△2,500	個人 @ 500×60 市民団体 @1,000×11 自治会 @1,000×11 企業 @2,000×8
補助金	1,170,000	1,344,000	1,344,000	0	野洲市 1,322,000円 財団法人 淡海環境保全財団 22,000円
寄付金	100,000	85,000	88,700	3,700	財団法人 野洲市文化スポーツ振興事業団 (エコフリーマーケット出店者) 北桜ふれあいサロン、江部ふれあいサロン、 錦の里自治会、ほか
繰越金	9,000	9,000	9,777	777	前年度繰越金
雑入	1,000	1,000	205	△795	預金利子
合 計	1,351,000	1,506,500	1,507,682	1,182	

(支出)

単位:円

科 目	平成21年度 当初予算額	補正 予算	決算	差額	備 考
事業費	1,200,000	1,386,000	1,328,754	△57,246	自然部会 740,828円 エコ資源部会 244,471円 まち・くらし部会 310,171円 緑のカーテン 33,284円
事務費	141,000	110,000	129,779	19,779	消耗品 8,718円 食糧費 8,221円 通信運搬 87,840円 報償費 25,000円
予備費	10,000	10,000	0	△10,000	
合 計	1,351,000	1,506,000	1,458,533	△47,467	

平成 2 1 年度 収支決算の結果

収入決算額 1,507,682 円

支出決算額 1,458,533 円

収支差引き額 49,149 円

収支決算による差引き額 49,149 円は、平成 2 2 年度に繰越しするものとする。

平成 2 1 年度 環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

会計監査報告

監査結果

平成 2 1 年度環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」の収支決算について監査を行った結果、帳簿の記載および領収書等の関係書類はいずれも適正に処理され、決算金額は正確であったので報告します。

平成 2 2 年 4 月 1 4 日

監 事

監 事

平成 22 年度 事業計画（案）

各部会の活動方針

昨年度の活動を継続して行っていく中で、関係団体・組織との連携や活動の積極的な情報発信を通じて、プロジェクトの組織拡充と活動の成果をめざす。また会員をはじめ、環境保全活動の実践者との連携を図ることを目的に、交流イベントを開催する。

自然部会は、里山から川、緑地、田畑、そしてびわ湖までの一連の自然環境の保全をめざした活動を展開することで、多くの市民に対してプロジェクトの趣旨を普及啓発するとともに、自然環境を軸とした地元産業の活性化を図る。

エコ資源部会は、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた仕組みづくりを行うため、市民参加によるプロジェクトの実践（省エネ学習・生ごみ資源化・廃食油の利用促進・リユースの促進・エコな店ガイドブック）を進め、活動の成果をめざす。

まち・くらし部会は、一人ひとりが身近な暮らしで実践できる環境に配慮した行動（レジ袋の使用削減、エコドライブ）を普及させるため、事業者や他の関係団体と連携した仕組みを構築することで活動の成果をめざす。

1. プロジェクト 「『おらが川』人が親しめるきれいな川づくり」

予算 200千円

- ① 家棟川エコ遊覧（櫓漕ぎ体験、自然観察学習船）の運航（4月～11月予定）
- ② ホタルの住める川づくりを6ヵ所で行う。ホタル学校の開催
- ③ 里川と内湖フォーラムの開催

2. プロジェクト「野洲の里山の自然に触れよう、知ろう」

「山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう」

予算 150千円

- ① 山部会として、生産森林組合から借用している里山のスペースを整備し、市内の小中学生を対象とした、野洲の里山を知り、体験するイベントを検討する。
- ② 生産森林組合と連携し、間伐作業の補助や、里山の整備などの活動を通じ、里山に対する市民の理解を広める。
- ③ これらの活動を通じて、山部会で活動する人を増やし、山の保全活動の活性化を図っていく。

3. プロジェクト 「びわ湖を身近なものにしよう」

予算 187千円

- ① 家棟川エコ遊覧、湖魚食の試食、砂浜学習の開催（5月22日予定）
- ② あやめ浜まつりの開催（8月予定）
- ③ びわ湖の水源地となる里山への植樹活動（12月予定）

4. プロジェクト 「ヨシ地帯をみんなで増やそう」

助成事業として実施

- ① 中主小学校でのヨシ苗の栽培などを通じた環境学習の実施（6月予定）
- ② 昨年度に引き続いてヨシの植栽を進めるため、市民参加型のイベントを開催する。（11月予定）

5. プロジェクト 「まちなかの緑ボリュームアップ大作戦」
「河畔林の再生」「鎮守の森再生」

予算 130千円

- ① 市三宅地先の野洲川河辺林で「緑のプロムナード」づくりを進め、活動の啓発を目的に自然観察会や木の実試食会、タケノコ掘り、竹細工などに取り組む。
(タケノコ掘りイベント 6月5日予定)
- ② 公共施設の緑化推進、鎮守の森の再生を進める。
- ③ 日野川河辺林などへの植樹、野洲駅前の森構想の検討を実施。

1. プロジェクト 「みんなで進める環境学習」

予算 50千円

- ① 市民の環境学習に対する理解を深めるため、推進会議が発行する「ニュースレター」等を活用して、環境問題に関する情報提供を行う。
- ② 市民を対象に地球温暖化問題の環境フォーラムを開催する。
- ③ 各種団体、特に女性関係団体等の総会や研修会にDVDなど啓発教材の鑑賞の機会を働きかける。

2. プロジェクト 「生ごみ資源化システムづくり」

予算 40千円

- ① 手軽な生ごみ堆肥化方式として「好気性微生物」を用いた手動式処理機、その他の試験を行い、効果のある方式について市民にPRし、普及を図る。
- ② 生ごみ堆肥化の新たな方式として、みみずコンポストの試験を行う。
- ③ 小規模食品事業者向けに市販されている生ごみ処理機の特徴やコスト比較などを行い結果まとめて、同事業者に生ごみ処理の実施を促す資料とする。

3. プロジェクト 「天ぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう」

予算 20千円

- ① 過年度に実施したアンケート調査の結果、廃棄物として処分されている廃食油の量が多いことから、有効的な回収方法（場所、集め方）の検討を行う。
- ② 検討した回収方法を実践するため、モデル地区として自治会に依頼する。
- ③ モデル地区で廃食油回収の試行を行い、課題点などを整理する。

4. プロジェクト 「お得で楽しいリユースステーションをつくろう」

予算 40千円

- ① 積極的な情報提供により活動の趣旨を広くPRして多数の市民の参画のもとで、市民からのリユース品の提供と展示会への参加を勧める。
- ② 「展示と無償譲渡会」の内容を充実し、出来るだけ多く開催する。
- ③ リユースセンターの整備を進め、自転車やおもちゃなどの整備の応援要員を募集し、リユース展示品の品目増加を検討する。

5. プロジェクト 「『こんなエコな店があるよ』ガイドブック作成事業」

予算 122千円

- ① 昨年度実施した聞き取り調査結果をまとめ、ガイドブック（ガイドマップ）を作成する。
- ② ガイドブックを自治会等に配布し、販売事業者の環境配慮活動を広める。

1. プロジェクト 「ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち」

予算 162千円

① ごみを減らそう出前講座の実施

より幅広い市民にレジ袋削減の趣旨を啓発するため、親子や高齢者を対象として学童保育所やふれあいサロンなどでやさしく分かりやすい出前講座を検討、実施する。

また対象を拡大するため、市内小学校と連携し、学習教材の充実化を図る。

② 市内環境啓発キャンペーンの実施

県や市、事業者、関係団体と連携して、レジ袋削減をはじめとした環境に配慮した買いもの（グリーン購入）の啓発キャンペーンを実施する。

③ 「買い物ごみ減量協定」（仮称）の検討

市民、事業者、行政の合意形成によるレジ袋削減をはじめとした買い物ごみの減量を進めるため、県や市と連携し、自主協定の締結をめざす。

④ 地産地消の啓発活動

消費者の立場から地産地消を進めていくために、関係団体との連携を図り、啓発手法の検討を行う。

2. プロジェクト 「一人ひとりが自動車社会を見直す『エコドライブ』活動」

予算 168千円

① エコドライブ教習会の開催（11月予定）

地域や企業においてエコドライブを普及するためのリーダーを養成するため、自動車教習所などと連携して、実車運転による省エネ運転の教習会を実施する。

② エコドライブの啓発活動の実施

地域や企業においてエコドライブ講習会を開催するほか、各種イベントと連携しエコドライブの普及啓発を図る。

第 4 号議案

平成 2 2 年度 予算（案）

（収入）

単位:円

科 目	平成22年度 予算額	前年度 予算額	差額	備 考
会 費	84,000	67,000	17,000	個人 @ 500×64 市民団体 @ 1,000×19 自治会 @ 1,000×11 企業 @ 2,000×11
補助金	1,239,000	1,344,000	△ 105,000	野洲市 (環境基本計画推進事業補助金)
受託金	2,788,000	0	2,788,000	野洲市 (ふるさと雇用再生特別推進事業)
寄付金	85,000	85,000	0	財団法人 野洲市文化スポーツ振興事業団 (エコフリーマーケット出店者)
繰越金	49,000	9,000	40,000	前年度繰越金
雑入	1,000	1,000	0	預金利子
合 計	4,246,000	1,506,000	2,740,000	

（支出）

単位:円

科 目	平成22年度 予算額	前年度 予算額	差額	備 考
事業費	1,287,000	1,386,000	△ 99,000	自然部会 680,000円 エコ資源部会 272,000円 まち・くらし部会 330,000円 緑のカーテン 5,000円
受託事業	2,788,000	0	2,788,000	嘱託職員報酬 2,063,000円 社会保険料、諸手当 417,000円 事務費 308,000円
事務費	128,000	110,000	18,000	講師等謝礼 40,000円 食料費 51,000円 通信運搬費 37,000円
予備費	43,000	10,000	33,000	
合 計	4,246,000	1,506,000	2,740,000	

第 5 号議案

役員の選出について（案）

活動の拡充に伴い、下記の 2 人を新たに役員に選出する。

水島 左知子

鎌田 忠則

任期は平成 23 年 3 月までとする。

役員一覧

代 表		松沢 松治
副代表		飯田 百合子
運 営 委 員	自然部会	北出 肇
		永田 清美
	エコ・資源部会	新富 章正
		増村 和美
	まち・くらし部会	河本 正信
		水島 左知子
	全体	鎌田 忠則
	会計監事	中塚 勝
		橋本 弥寿雄